

小売事業者のリサイクル状況

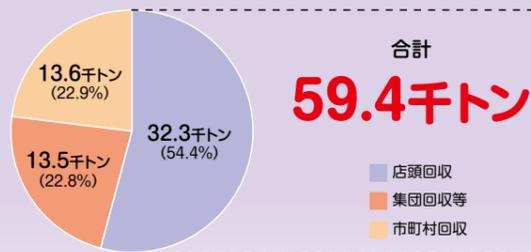
スーパーマーケットなどの店頭では多くの紙パックが回収されています。

家庭からの紙パック回収の半分以上を占めているのがスーパーマーケットなどの店頭で設置された回収ボックスからの回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会と日本生活協同組合連合会からの提供情報のほか、独自調査により行っています。2013年度の店頭回収量は32.3千トンで前年度より0.4千トン減少しました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます! リサイクル

株式会社 万代

(本部: 大阪府東大阪市)

取組事例

株式会社万代は大阪府を中心に関西地区に147店舗(2014年11月末時点)を展開するチェーンストアです。「日本一 買い物に行きたい 店舗をめざして」を企業理念に掲げ、お客様の暮らしを「より豊かに」「より楽しく」「より快適に」を合言葉にさまざまな改革に挑戦しています。

牛乳パックリサイクルについては、1992年より全社方針でもある環境対策の一環として、店頭で回収ボックスを設置しており、当時は東大阪に仲介いただいた福祉作業所で引き取りを行っていました。近年は回収量も増えてきて、受け入れ量の問題から製紙会社へ売却するようになり、回収代金は福祉作業所の活動資金にもなっています。

牛乳パックの回収量は2013年度実績でおよそ234トン、再生品は「おかえりティッシュ」として年間22,000~35,000個、トイレトペーパーは「ただいまロール」として年間27万ロールを購入し、各店舗や自社の各部署等で使用しています。

異物や中身の入っている状態で回収ボックスに入れられてしまうケースもあるため、見まわりを行い、資源の品質の維持、有効活用に努めています。



「万代」の店舗



牛乳パック回収ボックス

福祉作業所の回収状況

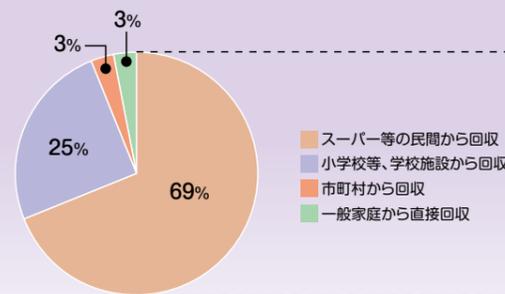
紙パックの回収以外に紙パックの手すきはがきなど製品作りを行っています。

福祉作業所や市民団体の回収元は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが最も多く、次いで小学校などの学校施設からの回収と市町村からの回収、さらに一般家庭からと多様です。2013年度の基本調査の回収量は例年と同じく約1千トンでした。

多くの福祉作業所では、紙パックの回収以外にも紙パックを再利用した手すきはがきやしおり等の製品作りを行っています。

なお、マテリアルフローには基本調査の他、全国パック連による福祉作業所の実態調査についても加味しています。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

社会福祉法人 桃花塾

(所在地: 大阪府富田林市)

取組事例

社会福祉法人 桃花塾は、大正5年(1916年)に「生命の畏敬」を基本理念として創立され、障がいを持つ人々の価値ある生活の向上をめざして「児童部」「成人部」「通所部」「ケアホーム」の4事業を展開し、児童福祉、障がい者支援に注力しています。

環境活動としては、紙パック・空き缶などの資源物を回収・分別してリサイクル事業者へ販売するほか、紙パックパルプを再利用した文具雑貨類の制作・販売を行っています。

回収拠点は、近隣スーパーの物流センターや学校、保育園などで、最近は大規模マンションの理事会にも協力いただいています。2013年は48トンの回収実績で、知人や民生委員のご厚意で、町会などで協力者が徐々に増えています。スーパーでの店頭回収品では、異物や未洗浄品の混入という課題がありますが、異物を分別することも事業の一環と考え、積極的に展開してきました。回収品の品質の向上のためにも桃花塾の取組を周知し、協力者・理解者を増やして、「洗って開いて乾かして」を啓発しています。



紙パックパルプを再利用した文具雑貨類



資源物の回収の様子

市町村回収・集団回収の状況



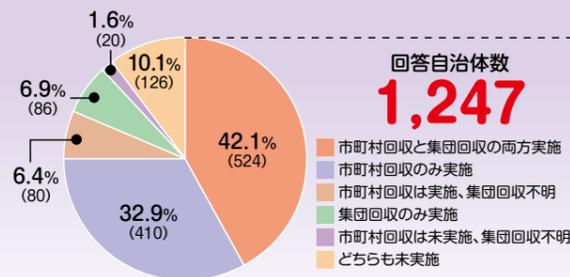
紙パックの回収は
全国の約9割の自治体で
実施されています。

2013年度調査は全国1,742市町村区のうち、福島原発事故の影響が残る7町村を除いた1,735の自治体を対象に実施し、1,247市町村区から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の85.9%になります。

調査では、市町村区や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、市町村区に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

市町村回収と集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が81%、集団回収が不明を除いて49%でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施しているのは88%です。全国の約9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

市町村回収と集団回収の実施率



自治体の取組によって
22.7千トンの紙パックが
回収されました。

市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2013年度は市町村回収量が13.6千トン、集団回収量が9.1千トンで、合計では22.7千トンでした。

1人あたりの回収量(原単位)をみると、全体では市町村回収から集団回収へわずかに動いています。全国人口の6割以上を占める一般市の回収量はここ数年高めで安定しています。政令指定都市や東京特別区、町村では市町村回収から集団回収への動きが見られます。また、政令指定都市や東京特別区の前単位が小さく、大都市での回収をどう進めていくのが課題といえるでしょう。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

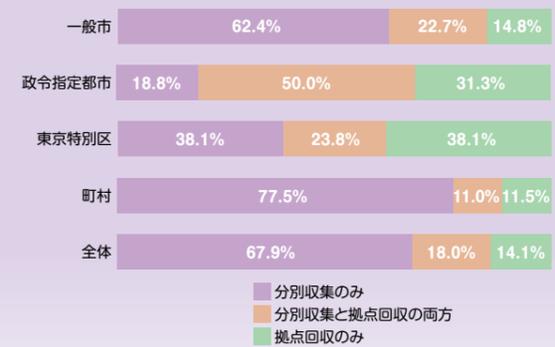
	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	13.6	9.7	1.4	0.7	1.5
都市類型別回収推計量比率	100%	72%	10%	5%	11%
一人あたりの回収量(g)	104	121	53	76	126
集団回収					
推計量(千トン)	9.1	6.0	2.2	0.2	0.6
都市類型別回収推計量比率	100%	66%	25%	2%	7%
一人あたりの回収量(g)	71	75	83	23	55
都市類型別人口(百万人)	128	81	27	9	12

紙パックの市町村回収は
分別収集方式や拠点回収方式
で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市町村を都市類型別にみると、一般市と町村で分別収集方式が多く、政令指定都市と東京特別区では拠点回収方式が多くなっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

大崎ウエストシティタワーズ (東京都品川区)

取組事例

JR大崎駅西口エリアは昭和62年、東京の副都心として住居・オフィスが一体となった街づくりが行われました。1,084世帯が入居する「大崎ウエストシティタワーズ」は、管理組合のほか、自治会組織を有しており、それらがコミュニティを形成してリサイクルを推進した好事例です。

牛乳パックリサイクルは管理組合と自治会の取組として、平成25年11月に試験的に6ヶ所に回収ボックスを置いたことから始まりました。現在では、各階の共用ごみ資材置き場(78ヶ所)に「牛乳パック回収のルール」を貼付して回収を行っています。各階で集められた牛乳パックは地下のストックヤードに運ばれて、定期的に回収されています。「洗って、開いて、乾かして」というルールを入居者のみなさんも守っていて大変協力的です。

毎年秋には「リサイクル回収感謝祭」を行っており、資源売却益から居住者への還元として、トイレペーパーや低農薬野菜パック等を配布しています。また、品川区の清掃事務所の協力を得て「混ぜればゴミ・分ければ資源」という展示も行っています。



「牛乳パック回収のルール」



設置された回収ボックス

学校のリサイクル状況

再生紙メーカーのリサイクル状況

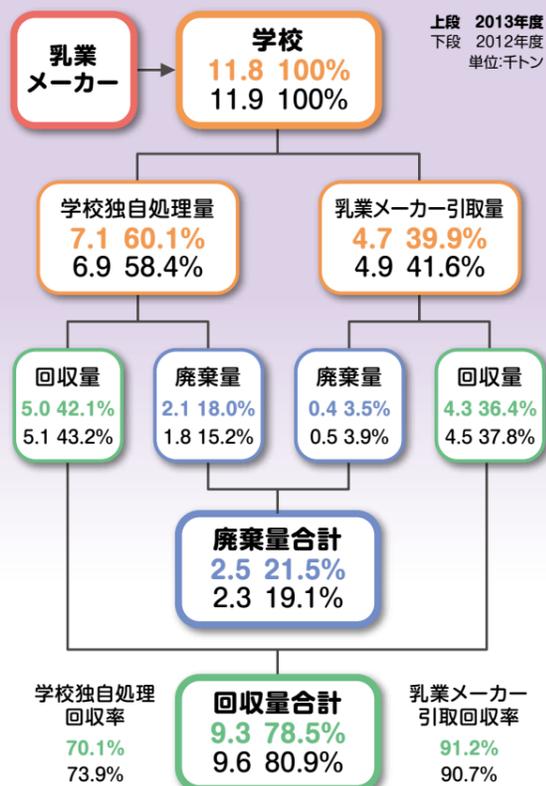


学校給食用牛乳の紙パックのリサイクルも増加しています。

2013年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度とほぼ同じ11.8千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは9.3千トンで引き続き高い比率で推移しています。

小学校では学乳紙パックのリサイクル以外にも、理科や算数などさまざまな授業での再利用や、家庭からの紙パック回収活動などが行われています。

学乳紙パックのマテリアルフロー (推計値)



※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

川口市立戸塚南小学校

(埼玉県川口市)

取組事例

埼玉県川口市にある戸塚南小学校は、2005年4月に開校した川口市では一番新しい小学校です。教育目標は「夢を持ち、生き生きと活動できる心豊かな児童の育成」で、特色のある教育活動を行っています。なかでも「エコスクール」では、古紙・牛乳パック回収、コンポストによる土づくり、屋上緑化、グリーンカーテン、また校内に太陽光発電パネルや雨水利用パネルが設置され入口に数値が表示されるなど、環境への取組が充実しています。

紙パックリサイクルはNPO法人・川口市環境会議からの話がきっかけで、メンバーに環境コーディネーターとして参加してもらいながら、学校・業者間の調整を進めました。

「エコスクール」の活動として総合学習の時間に実施する環境活動を軸に牛乳パックの回収活動を計画し、開校当初から学校給食の牛乳パックの回収リサイクルに取組み、その成果として、トイレトーパーを子どもたちに還元する方針を定めています。現在は第4金曜日の昼休みに「紙の日」として1~6年生全学年で回収を実施しており、周辺の参加校も13校に増えるなど活動が広がっています。

「平成25年度回収実績」は学校給食の牛乳パック回収量1,550kg、家庭からの紙パック550kg、合わせて2,100kgが回収されています。



太陽光発電パネル



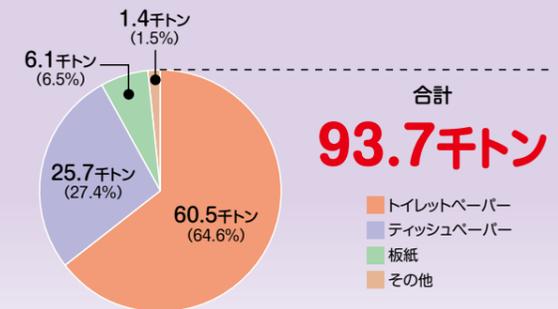
トラックに古紙積み込み

回収された紙パックは良質なパルプ繊維として再生されています。

アンケートで回答を得た15社の再生紙メーカーのうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙あるいは使用済紙パックを受け入れているのは12社でした。

2013年度の国内紙パック回収量と紙パック古紙輸入量をあわせた総受入量は119.1千トンになり、このうち約80%の93.7千トンがトイレトーパーやティッシュペーパーなどのリサイクル製品として生まれ変わりました。紙パックは良質なパルプ繊維として、これら製品の貴重な原料になっています。

リサイクル製品への利用状況



取り組んでいます! リサイクル

丸富製紙株式会社

(静岡県富士市)

取組事例

丸富製紙株式会社は1955年に操業を開始。紙づくりを通じて社会貢献と環境保全に積極的に取り組んでいます。創業以来、「環境に優しい企業を目指して」をスローガンに、積極的に資源・環境保護へ取組み、産業廃棄物を出さない生産技術(ゼロエミッション等)を確立するなど、資源・エネルギーを最大限に有効利用しています。

1984年からは山梨県大月市の学習グループ「たんぼぼ」からの要請により、使用済み紙パックのリサイクルを開始し、取組のリーダー的役割を果たしてきました。

牛乳パック回収車を使って、県内の小中学校・スーパー・団体等から紙パックを回収しており、スーパーの環境活動の一環としての紙パックリサイクル品の販売に協力しています。納品時に紙パックを回収することで、安定的な紙パック回収量を確保しており、受け入れ量は工程損紙を含めると年間13,000トンを超えています。

また環境教育にも熱心で、年間でおよそ7,000人の工場見学者を受け入れています。工場見学の際には見学者として紙パック3枚を持ってきてもらい、牛乳パックを原料にしてトイレトーパーとして再生されていく様子などを勉強してもらっています。



牛乳パック回収車



「工場見学科」の紙パックの回収